令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	国語	科　目	現代の国語	学年	1年	類型	共通
単位数	2	教科書	筑摩書房『712　現代の国語』				
副教材	『ちくま評論選』						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成する。 （1）実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 （2）論理的に考える力や、深く共感したり豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりできるようにする。 （3）言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価規準	**【知識・技能】** 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、読書に親しみながら、言葉を通して積極的に他者や社会と関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月	問いかける力を伸ばす	『境目』川上弘美 『サイエンスの視点、アートの視点』齋藤亜矢	○	○	○	第1回
	5月	情報を正確に読み取る	『ことばとは何か』内田樹 『デジタル社会』黒崎政男 『システムと変異』中屋敷均	○	○	○	
	6月	書くことで世界とつながる	『ことばがつくる男と女』中村桃子 『身体、この遠きもの』鷲田清一 『贈り物と商品の違い』松村圭一郎	○	○	○	
	7月	資料やデータを活用する	『わかっていることいないこと』堀正岳 『兎が自分でつづって語る生活の話』E・シートン		○	○	
2学期	8月	「議論する力」を育てよう	『この場で重なることばと声』		○	○	第2回
	9月	説得することばを身に付ける	『誰かの靴を履いてみること』ブレイディみかこ 『〈私〉時代のデモクラシー』宇野重規	○	○	○	
	10月	隠された情報を読み解く	『魔術化する科学技術』若林幹夫 『未来は存在しない』野矢茂樹 『マルジャーナの知恵』岩井克人	○	○	○	
	11月	発信する力、受信する力を伸ばす	『ポスト真実時代のジャーナリズム』国谷裕子 『会話と対話』長田弘 『記憶する体』伊藤亜紗	○	○	○	第3回
	12月	目的に沿って表現の細部を整える	『贅沢の条件』山田登世子 『瓦を解かないこと』堀江敏幸	○	○	○	
3学期	1月	筋道を立てて論述する	『来るべき民主主義』國分功一郎 『主体という物語』小坂井敏晶	○	○	○	第4回
		意見を文章にまとめてみよう	『書くことが「世界」を創る』		○	○	
	2月	さまざまな視点から読み解く	『開かれた文化』岡真理 『リスクと近代社会』大澤真幸 『名づけと所有』西谷修	○	○	○	
	3月	対比の働きを理解しよう	『過去はどこに行っちゃったの？』 野家啓一・永井均	○	○	○	

学習の方法	授業では、知識・理解を深めるだけでなく、「話す」・「聞く」・「書く」・「読む」能力を総合的に身に付けていくために、個々の自主的な発表の機会を多くとります。教材によってはグループ学習を実施し、発表することもあります。また、評論教材では要約を実施し、自分でまとめる力を身に付けていきます。さらに、評論については、サブテキストを活用し、高度な読解力を養っていきます。年４回の定期考査や漢字小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（読書感想文、課題、ノート、学習プリント等）、小テスト（漢字テスト等）の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力、話す・聞く能力、語彙力、理解力などを総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考･判断･表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	国語	科　目	言語文化	学年	1年	類型	共通
単位数	2	教科書	筑摩書房『言文712 言語文化』				
副教材	『ちくま小説入門』						

学習目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 (2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

評価規準	**【知識・技能】** 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めている。	**【思考・判断・表現】** 論理的に考える力や深く共感し豊かに想像する力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 言葉を通して積極的に他者や社会に関わり、ものの見方、感じ方、考え方を深めながら、言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、読書により自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	4月	古文に親しみ、古文の世界を味わう	『宇治拾遺物語』 『十訓抄』	○	○	○	第1回
	5月	漢文を読むためのきまりを理解する	「漢文を読むために」 「故事成語を読む」『韓非子』 『唐詩紀事』・『戦国策』・『淮南子』	○	○	○	
	6月	フィクションの表現を探究する	『羅生門』芥川龍之介 「原典と小説を読み比べて、表現の違いについて考えてみよう」	○	○	○	
	7月	物語に表れた心情を読み取る	『竹取物語』 『伊勢物語』	○	○	○	
2学期	8月	背景を考えながら作品の視点を解釈する	『土佐日記』・『更級日記』	○	○	○	第2回
	9月	描かれたことばと行動から人間像を読み取る	『十八史略』 『日本外史』	○	○	○	
	10月	研ぎ澄まされた表現に触れ、ものの見方・感じ方を深める。	「随想を読む」 『失われた両腕』清岡卓行 『虹の雌雄』蜂飼耳	○	○	○	
	11月	文章を手掛かりに作者の思いを読み取る	『徒然草』 『方丈記』	○	○	○	第3回
	12月	唐詩を通して心情を伝える表現を身につける	登鸛鵲楼・鹿柴・秋風引・江雪・涼州詞 望廬山瀑布・江南春・過故人荘・登岳陽楼□ 香爐峰下新卜山居草堂初成偶題東壁	○	○	○	
3学期	1月	語りの文体が表す臨場感に触れる	『平家物語』 『転換期の文学―「平家物語」の魅力』兵藤裕己	○	○	○	第4回
	2月	フィクションの表現を探究する	『夢十夜』夏目漱石・『荘子』胡蝶之夢	○	○	○	
		思想を伝える表現の工夫を読み取る	『論語』 『老子』	○	○	○	
	3月	韻文の表現から、ことばへの理解を深める	『万葉集』 『古今和歌集』 『新古今和歌集』	○	○	○	

学習の方法	授業では、古典や近代以降の文芸作品といった教材を深く読み込み、内容を的確に理解していきます。教材によっては、調べ学習や発表、スピーチを行います。また、グループ学習を行い、周りの人と話し合う機会を多く設けます。家庭での予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、どこが重要な点かをはっきりつかみましょう。年４回の定期考査や小テストを利用して、基礎学力を定着させていきます。

評価の仕方	定期考査に加え、提出物（課題、ノート、学習プリント等）、小テストの成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、読解力・理解力・聞く能力・表現力などを総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考・判断・表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	地理歴史	科　目	地理総合	学年	第１学年	類型	共通
単位数	2	教科書	地理総合（二宮書店）　詳解現代地図　最新版（二宮書店）				
副教材	新編地理資料（東京法令出版）　地理総合ワークブック（二宮書店）						

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
評価規準	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的課題の解決に向けて構想したことを効果的に説明したり、議論したりする力を身に付けている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追求、解決しようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月 5月 6月 7月	地理の扉 第１章　地図とＧＩＳの活用 写真から読み解く地理的環境の特色 第２章　地理的環境の特色	・地球上の位置情報の基礎として、球体としての地球、緯度・経度の基本的しくみや位置の示し方を理解する。 ・図法によって異なる世界地図の特色を捉え、世界における日本の位置を理解させる。 ・交通・通信、貿易・物流、観光の視点から、人やもの、情報、資本、サービスの移動のようすについて、統計地図やグラフなどの資料から読み取る技能を身に付ける。 ・身近な地図を集め、それらの地図の特徴を捉え、地図情報の有用性を理解する。 ・世界の大地形の広がりが、プレートテクトニクスに基づくプレート境界と関連していることを理解する。 ・世界の気候をケッペンの気候区分から捉え、人々の生活文化に多様な影響を与えていることを理解する。 ・世界の生活文化が各地域の環境に基づいて発達する産業をを捉え、第１次産業、第２次産業、第３次産業の地域的な特徴をグローバル化の観点で理解する。 ・世界の生活文化の多様性を、宗教、言語の分布や人々との関わりを資料を通じて理解する。	○ ○	○ ○	○ ○	第１回
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	各地域の生活文化と地理的環境のかかわり 第３章　世界各地の生活文化 相互に関連する地球的課題～ＳＤＧｓ 第４章　地球的課題と経済協力	・世界の諸地域の自然環境や生活文化を、主題図や写真などの資料を通じて理解し、様々な地域の地域性を多面的・多角的に考察し、現状と課題を理解する。 ・地球的課題について、主題図やグラフなどの資料を集め、グローバル、ローカルのそれぞれの異なる視点から根拠をもとに解決のための取組をＳＤＧｓと関連付けて考える。	○ ○	○ ○	○ ○	第２回 第３回
3学期	1月 2月 3月	第５章　生活圏の諸課題 世界地図でとらえる自然災害のリスク １　日本の自然環境と防災 地理の力で地域の課題を解決しよう。 ２　生活圏の諸課題と地域調査	・日本列島の地形や気候の特徴を主題図、グラフ、写真などの資料をもとに、多様性や自然の恩恵があることを認識しながら、自然災害を与える要素があることを理解する。 ・日本各地で起こっている自然災害を具体的な事例から理解するとともに、新旧の地形図、ハザードマップ、気象情報、電子地図などを利用する技能とともに捉える。 ・日本が抱える地域的課題について、景観観察や聞き取り調査の技能を身に付ける。 ・調査結果をもとに、地域の活性化に向けたまちづくりプランを発表する。	○ ○	○ ○	○ ○	第４回

学習の方法	教科書、地図帳、ワークブック等を活用して、地理に関わる諸事象について、学習内容の整理や様々な資料を使った問題に取り組みます。予習は当然のことですが、特に復習に力を入れましょう。（例：教科書を読む→問題を解く→もう一度教科書を読み、解けなかった内容を理解する）地理や社会現象全般にわたる基本的知識を応用して、地理的思考力・考察力を養うことを心掛けましょう。地球的な課題を広い視野から総合的に捉え、その解決方法を考察します。

評価の仕方	・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。 ・授業態度やノート、プリント等の活用状況を点検し評価します。 ・長期休業中のレポートにより、諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能や、地理的課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考・判断・表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	地理歴史	科　目	歴史総合	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	高等学校　歴史総合（第一学習社）				
副教材	歴史総合ノート（第一学習社）						

学習目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。

	【知識・技能】	【思考・判断・表現】	【主体的に学習に取り組む態度】
評価規準	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解している。また、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握しその解決を視野に入れて構想したり、議論したりする力を身に付けている。	よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解などが見られる。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月	第１部　歴史の扉 歴史と私たち、歴史の特質と資料	・近現代の歴史の大きな変化と私たちの生活との関連について考察、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史のつながりについて理解する。	○	○	○	
	5月	第２部　近現代の世界と日本 第１章　近代化と私たち	・資料を活用し、歴史学習に必要な基本的な技能などを身に付け、資料と歴史の叙述の関わりについて理解する。	○	○	○	
	6月	第１節　18世紀のアジアの繁栄	・18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易など、18世紀のアジアの経済と社会を理解する。	○	○	○	
		第２節　産業革命と市民革命	・産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解する。	○	○	○	
	7月	第３節　イギリスの繁栄と国民国家の拡大	・18世紀後半以降の欧米の市民改革や国民統合の動向などを基に、立憲体制と国民国家の形成を理解する。	○	○	○	第１回
2学期	8月 9月	第４節　アジア諸国の変貌と日本の開国	・列強のアジア進出と植民地の形成、日清・日露戦争などを基に、列強の帝国主義政策とアジア諸国の変容を理解する。	○	○	○	
	10月	第５節　帝国主義の発展 第２章　国際秩序の変化や大衆化と私たち	・帝国主義政策の背景やアジア・アフリカに与えた影響に着目し、帝国主義政策の特徴や列強間の変容について多面的・多角的に考察する。	○	○	○	第２回
	11月	第１節　第一次世界大戦と大衆社会	・第一次世界大戦の展開やナショナリズムの動向、大衆の政治参加やマスメディアの発達などを基に、国際協調体制について理解する。	○	○	○	
	12月	第２節　経済危機と第二次世界大戦	・世界恐慌やファシズムの伸張、第二次世界大戦の展開などを基に、国際協調体制の動揺について理解する。	○	○	○	第３回
3学期	1月	第３節　第二次世界大戦の戦後処理と新たな国際秩序の形成 第３章　グローバル化と私たち	・第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目し、日本に対する国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察する。	○	○	○	
	2月	第１節　冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	・冷戦下の先進国の政治動向や脱植民地化とアジア・アフリカ諸国などを基に、国際政治の変容について理解する。	○	○	○	
	3月	第２節　国際秩序の変容と21世紀の世界	・アジア諸地域の経済発展、資源・エネルギーと地球環境問題などが世界経済に及ぼした影響などに着目し、市場経済のグローバル化の特徴などを多面的・多角的に考察する。	○	○	○	第４回

学習の方法	教科書、準拠ノート等を活用して、近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、学習内容の整理や様々な資料を使った問題に取り組みます。予習は当然のことですが、特に復習に力を入れましょう。（例：教科書を読む→問題を解く→もう一度教科書を読み、解けなかった内容を理解する）用語や出来事を暗記するだけでなく、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどを、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を身に付けましょう。

評価の仕方	・小テストや定期考査において、授業で学習した基礎的事項の理解度を評価します。 ・授業態度やノート、プリント等の活用状況を点検し評価します。 ・長期休業中のレポートにより、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能や、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考・判断・表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	数学	科　目	数学Ⅰ・数学Ａ・数学Ⅱ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	３・２・１単位	教科書	「改訂版　数学Ⅰ」「改訂版　数学Ａ」「改訂版　数学Ⅱ」（数研出版）				
副教材	問題集「新課程　サクシード 数学Ⅰ＋Ａ,数学Ⅱ＋Ｂ」（数研出版） 参考書「NEW ACTION LEGEND　数学Ⅰ＋Ａ，数学Ⅱ＋Ｂ」（東京書籍）						

学習目標	数学Ⅰと数学Ａの学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、それらを活用する能力を伸ばすとともに、数学的な見方や考え方のよさを認識する。 （３学期は数学Ⅱを学習する。）

評価規準	**【知識・技能】** 数学Ⅰ，A，Ⅱの内容における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識及び，事象を数学的に表現・処理する方法などの技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** 数学Ⅰ，A，Ⅱの内容において，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方を身に付けている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 数学Ⅰ，A，Ⅱの内容において，その考え方に関心を持つとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	4月	数学Ⅰ 第１章　数と式	・数を拡張する意義や集合と命題に関する基本的な概念を理解する。一次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	○	○		第１回
	5月	第２章　集合と命題		○		○	
	6月	第３章　２次関数	・２次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識し、事象の考察に活用できるようにする。	○	○		
	7月	数学Ａ 第１章　場合の数と確率	・図表示や具体的な事象の考察から、場合の数及び確率について理解し、事象を数学的に考察し処理できるようにする。	○		○	
2学期	8月 9月	第２章　図形の性質	・平面図形や空間図形の性質についての理解を深め、事象の考察に活用できるようにする。	○	○		第２回
	10月	数学Ⅰ 第４章　図形と計量	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、具体的な事象の考察に活用できるようにする。	○		○	
	11月	数学Ａ 第３章　数学と人間の活動	・整数の性質についての理解を深め、事象の考察に活用できるようにする。身の回りで数学が活用されている例を学ぶ。		○	○	第３回
	12月	数学Ⅰ 第５章　データの分析	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	○		○	
3学期	1月	数学Ⅱ 第１章　式と証明	・等式や不等式の証明についての理解を深め、論理的な思考力を養い、命題などの考察に生かすことができるようにする。	○	○		第４回
	2月	第２章　複素数と方程式	・数の範囲を複素数に拡張して２次方程式を解くことや因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。		○	○	
	3月	第３章　図形と方程式	・さまざまな平面図形の諸性質や関係を、方程式や不等式を用いて数学的に処理することを学ぶ。	○	○		

学習の方法	・家庭での教科書の予習は欠かせません。予習で生じた疑問点を授業で解決し、復習します。 ・授業では、教科書と並行して、問題集（サクシード）の「重要例題」「問題Ｂ」「発展」を解きます。どうしても解けないときは、参考書（NEW ACTION LEGEND）を調べる、友人と研究し合う、先生に聞くなどして、必ず自力で解けるようにします。 ・家庭学習を計画的に毎日実行する習慣を身に付け、根気強く学習することが大切です。

評価の仕方	・定期考査に加え、週末課題やノートの提出、小テストの成績などを総合的に評価します。 ・平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や参加姿勢に加え、解答の板書状況などを総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考･判断･表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	理科	科　目	化学基礎	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	改訂版　化学基礎（数研出版）				
副教材	ニューステージ新化学図表（浜島書店）　セミナー化学基礎（第一学習社）						

学習目標	1　化学的なものの見方や考え方を身に付ける。 2　実験、観察を通して科学的に探究する能力を身に付ける。 3　進歩する現代の化学の素晴らしさや面白さを化学の学習を通して理解する。

評価規準	**【知識･技能】** 物質に関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに，科学的に探究するために必要な観察，実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身に付けている。	**【思考･判断･表現】** 物質に関する事物・現象から問題を見いだし，見通しをもって観察，実験などを行い，得られた結果を分析して解釈し，表現するなど，科学的に探究している。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 物質に関する事物・現象に進んで関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月 5月 6月 7月	第１編　物質の構成と化学結合 第１章　物質の構成 第２章　物質の構成粒子 第３章　粒子の結合	・物質は原子･分子･イオン等の微細な粒子からできていることを理解する。 ・成分としての元素の概念を理解する。 ・気体や液体、固体の性質を具体的に観察し、実験などを通して、結合の概念や物質の構造を理解する。	○ ○ ○	○ ○ ○	○ ○ ○	第１回
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	第２編　物質の変化 第１章　物質量と化学反応式 第２章　酸と塩基の反応	・物質の構成粒子の質量の考え方「モル」を学び、化学反応式に基づく、反応の量的関係の計算に習熟する。 ・酸･塩基の性質や価数，また強弱と電離度の関係について理解する。また、中和滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれ酸・塩基の濃度を計算する。	○ ○	○ ○	○ ○	第２回 第３回
3学期	1月 2月 3月	第３章　酸化還元反応	・酸化還元滴定実験を通して、その量的関係を理解し、身近にある物質中に含まれる酸化剤・還元剤の濃度を計算する。	○	○	○	第４回

学習の方法	毎日の授業を大切にし、授業を通して科学的な見方や考え方ができるように自分の学習目標を設定して努力することが大切です。化学式や化学反応式を単に暗記するのではなく、なぜそうなるのか理由を考え、系統立てて学習していくことが大切です。 科学的に探究する力や態度を育てるためには、実験や観察を積極的に行うことが大切です。短時間でかまいませんから予習を確実に行い、自分が何をするのか理解してから臨みましょう。

評価の仕方	定期考査に加え、授業中に行う小テストや提出物（実験ノートなど）を総合的に評価します。また、平常の取組についても評価の対象とします。授業態度や実験への参加姿勢も含めて総合的に評価します。

評価の観点	①　知識・技能　　②　思考･判断･表現　　③　主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	保健体育	科　目	保健	学年	第１学年	類型	共通
単位数	１単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説　新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を育成する。

評価規準	【知識・技能】 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けている。	【思考・判断・表現】 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を身に付けている。	【主体的に学習に取り組む態度】 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養おうとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	４月	事故の現状と発生要因	・交通事故の特徴や関係する要因について理解し、具体例をあげて説明できるよう学習する。	○	○		
	５月	交通事故防止の取り組み 安全な社会の形成 応急手当の意義と救急医療体制	・安全な交通社会のための方策や車両の安全装置について学習する。	○	○		
	６月	心肺蘇生法	・応急手当の意義や手順について理解する。 ・心肺蘇生法の原理や手順について理解する。		○ ○	○ ○	
	７月	日常的な応急手当 【実習】心肺蘇生法、AED使用法	・日常的なけがや熱中症の応急手当の手順や方法を理解し、実行できる力を養う。	○		○	第１回考査
2学期	８月	日本における健康課題の変遷	・わが国における健康水準の向上について理解する。	○	○		
	９月	健康の考え方と成り立ち ヘルスプロモーションの考え方	・健康問題の変化や健康の成り立ちと健康を保持増進する方法について理解する。	○	○		
	10月	感染症の問題とその予防 性感染症とエイズ	・どのようにすれば社会環境を健康的に変えることができるか学習する。 ・生活習慣病と関連の深い病気や健康の基本、特にがんについて具体的に学習する。	○	○	○	
	11月	生活習慣病の予防と回復 運動・食事・休養と健康	・健康的な食生活・運動習慣とはどのようなものか学習する。	○		○	第３回考査
	12月	がんの予防と回復	・質のよい休養や睡眠のとり方について学習する。		○	○	
3学期	１月	喫煙と健康	・喫煙、飲酒および薬物乱用に対する現状と対策について理解する。	○	○		
	２月	飲酒と健康 薬物乱用と健康	・心と大脳の働きと欲求不満との関連性について学習し、それがストレスとどう関係しているか理解する。	○	○	○ ○	
	３月	精神疾患の特徴と対応	・精神疾患の原因とその特徴について理解し、具体的な対処法について学習する。				第４回考査

学習の方法	教科書と副教材を中心に授業を行います。授業の中でそれぞれの内容に即して設定した学習課題を自らの手で調べるなどして、さらに理解を深めていきます。 また、学習した内容を単に暗記に留めるに終わらず、日常生活の中での実践力につなげて、自らが課題解決できる力を養っていきます。

評価の仕方	定期考査に加え、課題学習の内容や提出物の成績などを総合的に評価します。 また、平常の取組についても評価の対象とします。保健に関する知識理解及び興味関心の程度、日常生活における健康・安全に対する思考力や実践力などを総合的に判断します。

評価の観点	①　知識・技能　　②　思考･判断･表現　　③　主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	保健体育	科　目	体育	学年	第１学年	類型	共通
単位数	３単位	教科書	新高等保健体育（大修館書店）				
副教材	図説　新高等保健体育（大修館書店）						

学習目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成する。

評価規準	**【知識・技能】** 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し、判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、ひとり一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養おうとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月	体つくり運動	・東高体操や集団走を正確に身に付ける。 ・体ほぐしの運動や体力を高める運動を通し、その方法を学習する。		○	○	
	5月	球技選択Ⅰ	・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。 ・安全に留意する態度を養うとともに自らの体力に応じて学習する。	○		○	
	6月	体育理論	・体ほぐしの意義と体力の高め方について学習する。 ・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。	○	○		
	7月	体つくり運動・ダンス		○		○	
2学期	8月 9月	体つくり運動・ダンス	・運動会集団演技の練習を行う中で、体力を高め、集団の中での協調性を養う。		○	○	
		球技選択Ⅰ	・テニス、ソフトボール、バレーボール、バドミントンの中から選択し活動する。	○		○	
	10月	球技選択Ⅱ			○	○	
	11月	体育理論	・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。				
	12月		・社会の変化とスポーツについて学習する	○	○		
3学期	1月	体つくり運動 持久走	・持久走を行うことにより、体力を高め、自己の可能性に挑戦する楽しさを味わう。	○		○	
	2月	球技選択Ⅲ	・テニス、サッカー、バスケットボール、バドミントンの中から選択し活動する。	○		○	
	3月	体育理論	・運動技能の構造と運動の学び方について学習する。	○	○		

学習の方法	・本校独自の「東高体操」や「集団走」などみんなで一生懸命に授業に取り組むことを大切に授業を行っていきます。東高生として、授業へ取り組む真面目な姿勢が大切です。 ・運動技能の基礎基本を確実に学習し、仲間とともに体を動かす楽しさと喜びを味わい、自らの体力に応じて、自分の可能性に挑戦していきます。

評価の仕方	各種目や内容について、運動技能だけでなく、授業に対する意欲や運動やスポーツへの関心、一生懸命に頑張る態度など総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考･判断･表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	芸術	科　目	音楽Ⅰ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	MOUSA　1（教育芸術社）				
副教材	アカペラ・コーラス・セレクション、The Basics of Music						

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、芸術文化と幅広く関わる資質・能力を育てる。

評価規準	**【知識・技能】** 音楽史や楽典等の知識をもち、楽譜を読むこと、深く聴くこと、より良く表現することにつなげて豊かに活動している。	**【思考・判断・表現】** 楽曲にふさわしい表現や解釈を探り、時代や様式、作曲の背景などと関連づけて課題に向き合っている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 作品に向き合い、感受したり表現したりするために、自らの課題を設定して学習の進め方を工夫している。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月	1　校歌を歌おう	・松山東高校校歌	○	○	○	単元ごとの課題、実技テスト、ノートを評価
	5月	2　指揮法を学ぼう①	・レスピーギ「イタリアーナ」	○	○	○	
	6月		・ブルクミュラー「素直な心」	○	○	○	
	7月	3　混声合唱に取り組もう①	・木下牧子「サッカーによせて」	○	○	○	
2学期	8月 9月	4　混声合唱に取り組もう②	・木下牧子「鷗」	○	○	○	単元ごとの課題、実技テスト、ノートを評価
	10月 11月	5　指揮法を学ぼう②	・アーバン「短前打音」	○	○	○	
	12月						
3学期	1月	6　小品を作曲しよう	・CMソングを作ってみよう	○	○	○	単元ごとの課題、実技テスト、ノートを評価
	2月	7　指揮法を学ぼう③	・ムソルグスキー「展覧会の絵」	○	○	○	
	3月	（上記は主な学習内容） （鑑賞は年間を通じて実施）					

学習の方法	独唱曲や混声合唱に取り組む「歌唱」、指揮法を学び実技も行う「器楽」、小品をつくる「創作」が活動の大きな柱です。また、「鑑賞」の学習を大切にしており、年間を通して様々な演奏形態による音楽を聴き、演奏家や作曲家について学びながら鑑賞の記録を重ねていきます。 なお、夏期休業中には鑑賞レポート（ジャンルは自由）を課題としています。

評価の仕方	定期考査は実施しません。実技テストと平常の取組（提出物・忘れ物・授業態度・意欲等）、夏期休業中の課題などを総合的に評価します。 １．２学期末、学年末の年３回の評価です。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考・判断・表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	芸術	科　目	美術Ⅰ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	高校生の美術１（日本文教出版）				
副教材							

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。

評価規準	**【知識・技能】** ・多様な表現方法や画材の特性について色彩について幅広く理解している。 ・表現をするための基礎的な技能が身に付いている。	**【思考・判断・表現】** ・作品の制作意図に基づいて表現を工夫したり、画材や道具使い方を考えている。 ・作品の背景や時代などを関連づけて課題に向き合っている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 作品に向き合い、よりよい表現をするために、自ら考え主体的に取り組んでいる。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	4月	オリエンテーション				○	単元ごとに作品を評価します。
	5月	身近なものを描く（絵画）	・観察の方法と鉛筆デッサンを学ぶ。	○		○	
	6月	色彩の基礎、配色の魅力（デザイン）	・平面構成を通して色彩の基本を学び、アクリルガッシュの使い方を理解する。	○	○	○	
		ポスターで伝える（デザイン、鑑賞）	・文字の工夫とポスターについて学ぶ。		○	○	
	7月	アニメーションの技法（映像メディア表現）	・アニメーションの原理を学び、グループで企画、制作する。	○	○	○	
2学期	8月	夏休み課題	・人権ポスター		○		単元ごとに作品を評価します。
	9月	アニメーションの技法		○	○	○	
	10月 11月	人物を描く（絵画、鑑賞）	・自画像を通して自分を見つめ、心情を捉えて表現する。 ・絵画の表現方法を学び、自分の表現を追求して描く。	○	○	○	
	12月	暮らしの中の「使う」デザイン（鑑賞）	・使用されるものとしてのデザインについて学び、機能と形について考える。		○	○	
3学期	1月 2月	ペーパーウエイト（デザイン、彫刻）	・鋳造の技法を学び、金属の鋳造によるペーパーウエイトの制作をする。 ・使用するために必要な機能や安全性を考慮して、デザインする。	○	○	○	単元ごとに作品を評価します。
	3月	イラストレーションの魅力（デザイン）	・人物の特徴を捉え、誇張したり省略をして表現する。		○	○	

学習の方法	美術Ⅰの授業は実技中心です。楽しく活動しつつも、めりはりをつけて制作に集中しましょう。 制作の技術だけでなく、言葉や文字での表現活動も大切にしてください。 日頃から、自分が「何を好ましいと感じるのか」、そして「それはなぜなのか」を考えるようにしましょう。自分を知ることが深い表現活動につながります。

評価の仕方	ペーパーテストは実施していません。作品点と平常の取組（提出物、授業態度など）を総合的に評価します。また、技術的な巧さだけに評価が偏らないよう、個々の成長の過程や度合いを大切にしています。 各学期末、年３回の評価です。一つの課題の配点が大きいので未完成にならないように注意しましょう。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考･判断･表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	芸術	科　目	書道Ⅰ	学年	第1学年	類型	共通
単位数	2単位	教科書	新編　書道Ⅰ（教育出版）				
副教材							

学習目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

評価規準	**【知識・技能】** ・書の表現の方法や形式，書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに，書の伝統に基づき，作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け，表現している。	**【思考・判断・表現】** 書のよさや美しさを感受し，意図に基づいて構想し表現を工夫したり，作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え，書の美を味わい捉えたりしている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	4月 5月 6月 7月	1　書の世界へようこそ 2　漢字の書の学習 （1）楷書の学習 （2）行書の学習	・用具・用材・姿勢・執筆 ・さまざまな楷書 ・厳正と温雅 ・重厚と軽快 ・方勢と円勢 ・小字の書 ・さまざまな行書 ・行書の特徴 ・蘭亭序の鑑賞と臨書 ・争坐位稿の鑑賞と臨書	○ ○ ○	○ ○	○	単元ごとに課題作品を評価します。
2学期	8月 9月 10月 11月 12月	（3）篆書の学習 （4）隷書の学習 （5）草書の学習 3　仮名の書の学習	・風信帖の鑑賞と臨書 ・条幅の揮毫 ・篆書と篆刻 ・隷書の用筆と書体の変遷 ・草書の用筆 ・仮名の成立と発達 ・平仮名・変体仮名 ・連綿 ・高野切第三種の鑑賞と臨書	○ ○ ○	○ ○	○ ○	単元ごとに課題作品を評価します。
3学期	1月 2月 3月	4　漢字仮名交じりの書の学習 5　書の美を求めて	・全体構成の工夫 ・意図に応じた表現 ・用具・用材の工夫 ・文字の大きさ・全体構成の工夫 ・感動や思いの表現 ・漢字仮名交じりの書の表現と鑑賞	○	○ ○	○ ○	単元ごとに課題作品を評価します。

学習の方法	最初は臨書活動が中心になりますが、表現活動を高めるためには欠かせない学習です。各時間の目標を意識して授業に取り組んでください。また、制作に必要な道具や材料は事前に指示しますので忘れ物のないように準備しましょう。創作活動を豊かに展開するために、自然の美を感じる生活を送ってください。そして、その美しさを作品に表現できる喜びや楽しさを学びましょう。書は心を表す芸術です。

評価の仕方	定期考査は実施いたしません。作品点と平常の取組（提出物・ワークシート等・忘れ物・授業態度・意欲等）を総合的に評価いたします。 各学期末、年３回の評価です。

評価の観点	①　知識・技能　　②　思考･判断･表現　　③　主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度 松山東高等学校シラバス

教　科	外国語	科　目	英語コミュニケーションⅠ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	３単位	教科書	BLUE MARBLE English Communication Ⅰ（数研出版）				
副教材	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 NEW EDITION（桐原書店）						

学習目標	・聞いたり読んだりしたことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりすることができる。 ・さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。 ・説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたり、聞き手に伝わるように音読することができる。 ・英語音声の特徴を理解し、音連結を踏まえて英文を聞くことができる。

評価規準	**【知識・技能】** ・事実や自分の考えを整理して伝えたり，相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。 ・英文を読み/聞き，その内容を理解する技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** ・本文の内容について，学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり/書いたりできる。 ・本文に関連したテーマについて，30語以上で自分の意見を話したり/書いたりできる。	**【主体的に学習に取り組む態度】** ・本文の内容について，学習した語句や文法事項を用いて自分の意見を話したり/書いたりしようとしている。 ・本文に関連したテーマについて30語以上で自分の意見を話したり/書いたりしようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月 5月	Lesson 1 Friendships in the Digital Age	・デジタル時代における友だちの作り方 ・考え・意見を述べる ・フレーズリーディング	○	○	○	第１回
	6月	Lesson 2 Expos: Past, Present, and Future	・万博における日本の関わり ・理由・原因を述べる。 ・文のアクセント・イントネーション ・パラグラフの構成	○	○	○	
	7月	Lesson 3 The Fascinating World of a Professional Storyteller	・日本の伝統話芸の世界 ・確信を述べる ・英語のリズム	○	○	○	第２回
2学期	8月 9月	Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways	・人の行動を変えるための「仕掛け」 ・長所・利点を述べる	○	○	○	
	10月	Lesson 5 A Journey to Peace	・大虐殺を生き延びた１人の女性の物語 ・アクセントの基本ルール	○	○	○	第３回
	11月	Lesson 6 Humans Evolve with Measurements	・「測る」から人類の進化の歴史を紐解く ・妥当性を述べる	○	○	○	
	12月	Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets	・「バイオロギング」とは ・事実と意見の区別	○	○	○	
3学期	1月	Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	・「オーバーツーリズム」の解決策を考える ・方法・解決策を示す ・音の脱落	○	○	○	第４回
	2月	Lesson 9 Surviving in the Information Age	・玉石混交の膨大な情報から真実にたどりつくために何をすべきか ・目的を述べる	○	○	○	
	3月	Lesson 10 The Spirit of Zen: Less Is More	・「禅」の精神とは何か、そして現代の世界に与えた影響とは ・比較する	○	○	○	

学習の方法	a　ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b　ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身に付ける。 c　音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。

評価の仕方	a　ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b　ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c　音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d　単元テスト、単語テストなどの小テスト

評価の観点	①　知識・技能　　②　思考･判断･表現　　③　主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	外国語	科　目	論理・表現Ⅰ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	EARTHRISE English Logic and Expression Ⅰ（数研出版）				
副教材	総合英語 FACTBOOK これからの英文法 NEW EDITION（桐原書店）						

学習目標	・与えられた場面において、状況や立場に応じて自分の用件を正確な英語で伝えることができる。 ・与えられたテーマについて、自分の考えを即興で相手に伝えることができる。 ・さまざまな話題について、自分の考えを明らかにして50語程度のまとまりのある英文を書くことができる。

評価規準	**【知識・技能】** テーマについて，必要な背景知識・語彙・表現を用いて自分の考えを述べる技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** テーマについて，自分の考えを理由とともに伝えたり，相手の質問に答えたりしている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** テーマについて，自分の考えを理由とともに伝えたり，相手からの質問に答えたりしようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月	Lesson 1 Introduce yourself to your class	・説明・紹介する。 ・What is an effective way of making friends?	○	○	○	第１回
	5月	Lesson 2 How do you spend your weekend?	・時を表す（現在・過去・未来）	○	○	○	
		Lesson 3 Where did you go on vacation?	・時を表す（完了形）	○	○	○	
	6月	Lesson 4 How can I get there?	・能力・許可・義務を表す ・There should be more security cameras in public places.	○	○	○	
		Lesson 5 Would you like to come with me?	・依頼・勧誘や推量などを表す ・High school students should join a club.	○	○	○	
	7月	Lesson 6 Something really Japanese	・「～される」を表す ・What attracts tourists to Japan?	○	○	○	第２回
2学期	8月 9月	Lesson 7 Do you do any volunteer activities?	・「～すること」などを表す ・All high school should have a volunteer day once a week.	○	○	○	
		Lesson 8 Let's enjoy school life!	・to doを使って表す	○	○	○	
	10月	Lesson 9 Are you eco-friendly?	・「～すること」などを表す ・More and more people will take their own bags with them when they go shopping.	○	○	○	第３回
	11月	Lesson 10 What sports do you like?	・doing / doneを使って説明する ・More Japanese athletes should play for teams abroad.	○	○	○	
	12月	Lesson 11 That's new to me!	・doing / doneを使って説明する ・What are the best ways to stay healthy and reduce stress?	○	○	○	
3学期	1月	Lesson 12 Which Nobel Prize winner do you admire most?	・人や物について説明する ・AI will be beneficial to society.	○	○	○	第４回
	2月	Lesson 13 I'm interested in history	・時や場所について説明する ・It is a good thing for a place to be selected as a World Heritage site.	○	○	○	
		Lesson 14 Various countries around the world	・比較を表す ・Japanese high schools should organize school trips to foreign countries.	○	○	○	
	3月	Lesson 15 What job are you interested in?	・仮定を表す ・More Japanese people will work abroad in the future.	○	○	○	

学習の方法	a　ペアワーク、グループワークなどの言語活動を通して、英文やトピックの内容について理解を深める。 b　ワークシート、予習プリントに取り組み、英語に関する知識を身につける。 c　音読活動やインタビューを通して、英語の音声の特徴を理解し、英語のリズムで発話する。

評価の仕方	a　ペアワーク、グループワークへの参加状況や取組 b　ワークシート、予習プリントなどの課題への取組 c　音読テスト、口頭テストなどのインタビューテスト d　単元テスト、単語テストなどの小テスト

評価の観点	①　知識・技能　　②　思考･判断･表現　　③　主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	家庭	科　目	家庭基礎	学年	第１学年	類型	共通
単位数	２単位	教科書	Agenda 家庭基礎（実教出版）				
副教材	家庭科ノート、調理実習ノート基礎編（愛媛県高等学校家庭科教育研究会編） 2022最新　家庭　生活ハンドブック　資料＆成分表（第一学習社）						

学習目標	家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活の在り方、子どもや高齢者の生活と福祉、生活の自立と健康のための衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技能を習得し、主体的にグローバルな生き方をめざして、男女が協力して家庭や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てることを目標とします。

評価規準	**【知識・技能】** 生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、それらに係る技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** 生涯を見通して、生活の中から課題を設定して実践を評価し、考察したことを論理的に表現するなど課題解決力を身に付けている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図り、実践しようとしている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点			定期考査
				①	②	③	
1学期	4月	導入、オリエンテーション	・学習内容・方法・評価を理解する。	○		○	第１回
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	・ホームプロジェクトと学校家庭クラブについて理解する。	○	○	○	
	5月	１章　自分・家族 －多様化した社会に生きる－	・家族・家庭の意義を理解し、家族の一員としての意識を持つ。	○	○	○	
	6月	３章　高齢者 －高齢者と生きる－	・高齢者の心身の特徴と生活及び高齢者の福祉について理解し、高齢者を支える家族や地域社会の役割について考える。	○	○	○	
		４章　社会福祉－支えあい共に生きる－	・くらしを支える福祉のあり方を理解する。	○	○	○	
	7月	６章　衣生活 －選んで着る－	・被服の機能と着装、管理の知識と技術を習得し、健康で快適な衣生活を理解する。	○	○	○	
2学期	8月 9月 10月	５章　食生活 －楽しく安全に食べる－	・栄養、食品、調理、食品衛生などに関する基礎的な知識と技術を習得し、健康で安全な食生活について理解する。 ・食にかかわる情報を適切に判断し、実生活に生かす態度を身に付ける。	○	○	○	第３回
	11月 12月	８章　消費・環境 －消費社会を生きる－	・家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得し、消費者としての自覚を持つ。 ・現代の消費生活と環境のかかわりを理解し、環境負荷の少ない生活を目指して生活意識や生活様式を見直す。	○	○	○	
3学期	1月	７章　住生活 －人間らしく住む－	・住居の機能、住生活と健康・安全などに関する基礎的な知識を習得し、健康で快適な住生活について理解する。	○	○	○	第４回
	2月	２章　子ども －子どもと生きる－	・子どもの発達、保育、福祉を通して、健全な発達を支える親や社会の役割を理解するとともに保育への関心を深める。	○	○	○	
	3月	生活設計 －自分の未来を描く－	・将来の生活への目標を立て、目指すライフスタイル実現のための生活を設計する。	○	○	○	

学習の方法	・ワークシート、実習ノート、資料集等を用いて授業を行います。実験・実習を活用し、実際の生活で実践できるように、生活との関わりを意識しながら進めていきます。講義や実習、グループ活動等に意欲的に取り組み、授業内容を参考にしながら、生活の中での問題点を発見し、自分で解決できる能力を身に付けていきましょう。

評価の仕方	・ワークシート、実習ノート、ホームプロジェクト等長期休業中の課題、授業態度等の平常の評価を含め、実習及び定期考査の成績を多面的に評価します。 ・授業への取組状況（授業態度・実習態度・学習活動への参加状況など）、課題の内容・提出状況、定期考査などから総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考･判断･表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）

令和4年度　松山東高等学校シラバス

教　科	情報	科　目	情報Ⅰ	学年	第１学年	類型	共通
単位数	１単位	教科書	最新情報Ⅰ（実教出版）				
副教材	最新情報Ⅰ　学習ノート新課程（実教出版）　30時間でマスター　Windows10対応　Office2019（実教出版） ケーススタディ情報モラルAdvance（第一学習社）						

学習目標	1　効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会の人との関わりについて理解を深める。 2　社会、産業、生活、自然等様々な事象を情報とその結び付きと捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 3　情報社会に主体的に参画する態度を養う。

評価規準	**【知識・技能】** 情報と情報技術を活用した問題の発見・解決等の方法や、情報化の進展が社会の中で果たす役割や影響、情報に関する法・制度やマナー、個人が果たす役割や責任等について、情報の科学的な理解に裏打ちされた形で理解し、情報と情報技術を適切に活用するために必要な技能を身に付けている。	**【思考・判断・表現】** 様々な事象を情報とその結びつきの視点から捉え、複数の情報を結びつけて新たな意味を見出す力や、問題の発見・解決等に向けて情報技術を適切かつ効果的に活用する力を身に付けている。	**【主体的に学習に取り組む態度】** 情報や情報技術を適切かつ効果的に活用して情報社会に主体的に参画し、その発展に寄与しようとする態度等を身に付けている。

		学　習　計　画　及　び　内　容		評価の観点 ①	②	③	定期考査
1学期	4月 5月	第１章　情報社会と私たち １節　情報社会 ２節　情報社会の法規と権利 ３節　情報技術が築く新しい社会	・情報社会の現状、情報の特性、情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ・知的財産権、他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法、個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ・社会の中で利活用されている情報技術、様々な情報について理解し、課題解決方法について考える。	○		○	
	6月 7月	第２章　メディアと情報デザイン １節　メディアとコミュニケーション ２節　情報デザイン ３節　情報デザインの実践	・メディアの種類・特性について理解し、メディアの発達について知り、目的に応じたメディアを選択する。 ・コミュニケーションの形態と特徴について理解する。 ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解し、情報を正確に伝える方法についても理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順、プレゼンテーションの手順とスライド作成、Webページ作成方法について理解する。	○	○		第１回
2学期	8月 9月 10月	第３章　システムとデジタル化 １節　情報システムの構成 ２節　情報のデジタル化	・コンピュータの構成と動作の仕組み、ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係、コンピュータの演算の仕組み、数値や文字をデジタル化する方法、コンピュータでの数値の計算方法、静止画や動画をデジタルで表現する方法、情報のデータ量を小さくする方法について理解する。	○	○		
	11月 12月	第４章　ネットワークとセキュリティ １節　情報通信ネットワーク ２節　情報セキュリティ	・情報通信ネットワークの構成、ネットワークを効率的に利用するための取り決め、Webページとメールの仕組み、ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。 ・脅威に対する様々な安全対策、情報セキュリティを確保する方法と技術、情報を安全に取り扱うための技術について理解する。		○	○	第３回
3学期	1月 2月	第５章　問題解決とその方法 １節　問題解決 ２節　データの活用 ３節　モデル化 ４節　シミュレーション	・問題解決の手順、問題発見の方法、問題を明確化する方法、解決案を検討したり整理・分析したりする方法、合意形成を目指した解決案を決定する方法、実行した解決案を評価する方法について理解する。 ・データを収集したり整理したりする方法、表計算ソフトの活用方法、データを適切なグラフや図に表現する方法、データ分析の手法、データベースの種類とその仕組みについて理解する。 ・モデル化の意味、分類、手順と方法を理解し、様々なモデル化を作成する。 ・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。 ・問題解決のためのシミュレーションを活用する。		○	○	
	3月	第６章　アルゴリズムとプログラミング １節　プログラミングの方法 ２節　プログラミングの実践	・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法、プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・変数，関数を使用したプログラムを作成する。多くのデータから目的のデータを探し出すプログラムを作成する。		○	○	

学習の方法	授業では，コンピュータ実習を中心に進めていきます。表計算ソフトを使用した情報の収集・整理(グラフ化)・分析，プレゼンテーションソフトを使用した情報の統合・発信の方法について個人で学習します。また、Python（プログラム言語）を活用したプログラミング演習を通して、プログラム作成方法について理解します。さらに、発表・評価をし、情報の活用法を完成させていきます。 年2回の定期考査で、著作権・セキュリティ、2進法・16進法を使った情報のディジタル化など、教科書の全範囲の学習を進め、副教材とともに定着させていきます。

評価の仕方	実習の内容・態度等と定期考査の成績を総合的に評価します。

評価の観点	① 知識・技能　② 思考・判断・表現　③ 主体的に学習に取り組む態度 （評価欄の数字は上記の評価の観点に対応しており、各単元で評価する項目に○を記入している。）